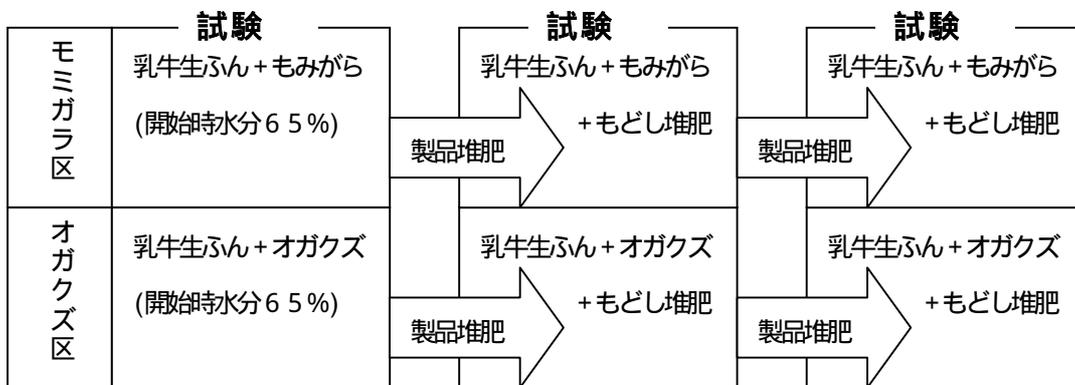


もどし堆肥の連続利用と成分の蓄積

畜産環境研究室では、適正なふん尿処理技術の確立と堆肥の利用促進を目的に、本年度から3カ年の計画で「もどし堆肥利用による環境負荷要因の解明」という課題に取り組んでいます。これまでに基礎データの収集を行いましたので、その一部を紹介します。

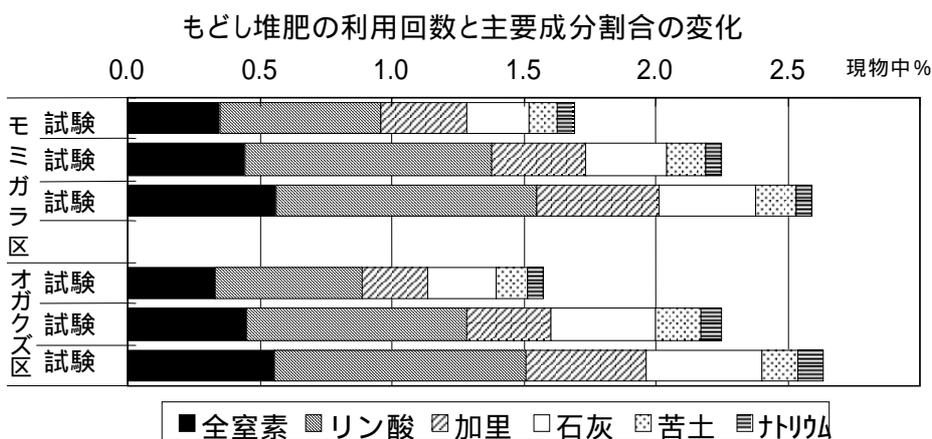
【試験の概要】強制通気式密閉型の小型堆肥化装置を用い、人工的に製造した堆肥を副資材として新鮮な乳牛ふんに混合し、再び同装置で堆肥化する行程を2回繰り返しました。各行程において堆肥化終了後試料の一部をサンプリングし、成分を分析してミネラル等の濃度を比較しました。

【フローチャート】



試験 . . . とも混合割合は乾物比で生ふん：もどし堆肥=1：1とし、さらに開始時水分が6.5%程度となるよう各副資材を添加した。
各試験とも期間は3週間とし、1週間毎に切り返しをした。

【結果】



もどし堆肥の利用回数と主要成分割合の変化は左図のとおりでした。もどし堆肥を連続利用することによって製造した堆肥中の成分濃度がわずかに上昇していることがわかります。

今後は畜産農家におけるもどし堆肥の製造と利用の状況を調査するとともに、もどし堆肥の草地への施用試験を実施する予定です。

(畜産環境研究室 北條享)